

V 教育課題

第11分科会 環境

研究課題 自然環境を大切にする心と実践力を育てる 環境教育と校長の在り方

分科会の趣旨

科学技術の驚異的な進歩による経済活動の拡大や人口増がもたらす環境破壊は、自然のもつ復元能力をはるかに超えている。今、地球環境の悪化が大きな課題となっている。環境汚染や異常気象、自然災害の多発、中でも地球温暖化は、人類の生存にかかる課題である。環境破壊の抑止、生物多様性の保全等の地球環境保全の考えに立ち、自然環境の保護・整備や循環型社会の形成に向けた意識改革が望まれている。

このような現実をはっきりと認識し、持続可能な社会をつくる人間と環境とのかかわりについて、子どもたちに地球的視野で考えさせることが大切であり、次代を担う子どもたちに期待する役割や教育にゆだねられている期待は大きい。子どもたちが、かけがえのない地球環境の保全に取り組む意欲・能力を身に付ける教育の推進が望まれている。

そのためには、子どもが体験活動等を通して身近な環境や生活から環境問題について考え、人間と環境とのかかわりについて理解を深め、正しい知識や見方・考え方を身に付けることが大切である。さらに、自然と共生するため、環境保全への実践的な態度や能力を身に付けるとともに、身近なところから環境問題の解決に向けた具体的な行動をとり、積極的に取り組んでいく子どもを学校・家庭・地域・関係機関等と連携して育成していく必要がある。

本分科会では、自然環境を大切にする心と環境保全のため主体的に行動する実践的な態度や資質、能力を育てる環境教育推進に果たす校長の在り方を明らかにする。

リーダーシップの視点

(1) 教科・領域等との関連を図った、環境教育の推進

自然環境を大切にしようとする子どもの意識と意欲を育てるためには、身近な環境問題に関心をもたせ、問題を見出し、考え、判断し、よりよい環境づくりや環境の保全に主体的に取り組む態度と能力を育成することが大切である。

そのためには、総合的な学習の時間を中心に各教科、道徳、特別活動などとの関連を図った環境教育を全校体制で推進していく必要がある。

こうした学校全体で取り組む環境教育の推進と学校の指導体制づくりにおける校長の果たすべき役割と指導性を究明する。

(2) 多様な体験的な活動を通し、実践的態度の育成の充実

環境問題を学ぶにあたり、子どもたちが自分は被害者であると同時に加害者にもなり得るという認識をもって、環境に配慮した循環型の生活に転換することの大切さに気付くことが必要である。

また、環境問題は、子どもの日常生活と密接な関係にあることから、食育や生活との関連を図った体験的な活動を重視し、問題解決的な学習や実践的な活動に積極的に取り組むことが大切である。さらに、体験的な活動を通して、家庭・地域・関係諸機関との連携を一層図りながら、学校や地域の特色を活かした環境教育の展開と環境の保全に主体的に取り組む態度と能力を育てる実践的な活動を推進しなければならない。

こうした環境教育の実践的活動の充実に果たすべき校長の役割と指導性について究明する。